

2015年5月29日



リオン株式会社

2015年3月期決算説明会

東証一部 証券コード:6823

【免責事項】本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

I 決算ハイライト

- ・2015年3月期の実績
- ・2016年3月期の見通し

取締役常務執行役員 大内 武彦

II 事業戦略

- ・中長期の重点戦略
- ・数値目標
- ・株主還元策

代表取締役社長 清水 健一

I 決算ハイライト

- ・2015年3月期の実績
- ・2016年3月期の見通し

取締役常務執行役員 大内 武彦

2015年3月期決算のポイント

増収増益を確保

- 売上高は3期連続の増収。
- 営業利益・経常利益・当期純利益において過去最高益を更新。

補聴器は減収、他3セグメントは好調維持

- 補聴器は、消費増税による長引く消費マインドの低下から回復基調にあるものの減収。
- 医用検査機器、音響・振動計測器、微粒子計測器は増収増益。

次期も増収増益の見通し

- 平成28年3月期の見通しは、売上高191億円(1.8%増)、営業利益25億円(7.2%増)。引き続き過去最高益を更新の見通し。

連結損益計算書



(単位:百万円)

	前期 (2013/4~2014/3)		当期 (2014/4~2015/3)		前期比	
					増減額	増減率 (%)
売上高	18,510	(100.0)	18,758	(100.0)	248	1.3
売上原価	8,750	(47.3)	8,756	(46.7)	6	0.1
売上総利益	9,759	(52.7)	10,001	(53.3)	242	2.5
販売費及び一般管理費	7,567	(40.9)	7,669	(40.9)	102	1.4
営業利益	2,191	(11.8)	2,332	(12.4)	140	6.4
経常利益	2,241	(12.1)	2,413	(12.9)	172	7.7
当期純利益	1,316	(7.1)	1,427	(7.6)	110	8.4
設備投資額	946		1,017		70	7.4
減価償却費	560		610		50	9.0
研究開発費	1,702		1,716		14	0.8

※()内の数値は対売上高比率:%

セグメント別の実績

(単位:百万円)

	前期 (2013/4～2014/3)	当期 (2014/4～2015/3)	前期比	
			増減額	増減率 (%)
売上高	18,510	18,758	248	1.3
医療機器事業	11,293	11,121	△171	△1.5
▶ 補聴器	8,841	8,659	△181	△2.1
▶ 医用検査機器	2,452	2,462	10	0.4
環境機器事業	7,216	7,636	419	5.8
▶ 音響・振動計測器	4,491	4,682	191	4.3
▶ 微粒子計測器	2,725	2,953	228	8.4
営業利益	2,191 (11.8)	2,332 (12.4)	140	6.4
医療機器事業	1,450 (12.8)	1,254 (11.3)	△196	△13.5
▶ 補聴器	989 (11.2)	823 (9.5)	△165	△16.7
▶ 医用検査機器	461 (18.8)	430 (17.5)	△30	△6.7
環境機器事業	741 (10.3)	1,077 (14.1)	336	45.4
▶ 音響・振動計測器	450 (10.0)	590 (12.6)	140	31.2
▶ 微粒子計測器	290 (10.7)	486 (16.5)	196	67.4

※()内の数値は利益率:%

セグメント別の状況

医療機器事業

補聴器



防水耳かけ型補聴器や超小型オーダーメイド補聴器のラインナップ拡充、普及価格帯の新シリーズ投入、および販売網の拡充に努めたが、消費税率引き上げによる個人消費マインドの低下を期初に受けたことから、売上高は減少。

医用検査機器



耳鼻咽喉科市場における設備投資意欲が旺盛であり、買替需要による販売が好調に推移。また、産科・周産期市場における販売が好調であったことから、売上高は増加。海外展開にかかる費用増等により営業利益は減少。

環境機器事業

音響・振動計測器



環境計測市場において、騒音計を中心としたシステム製品の販売が好調であったほか、インフラ関連の設備投資において販売が堅調に推移。また、産業計測市場において、タブレット型多機能計測システムの拡販により売上高は増加。

微粒子計測器



電子デバイス関連市場において、自動車関連産業等の需要増加に伴い、海外での設備投資が継続し、液中微粒子計の販売が増加。また、医薬関連市場において、大流量対応の気中微粒子計の需要が増加し、売上高は増加。

※表中の矢印は、売上高と営業利益の前期比増減を表しています。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前期末 (2014/3)	当期末 (2015/3)	前期末比増減額
流動資産	13,149	13,241	91
固定資産	11,850	12,450	599
資産合計	25,000	25,691	690
流動負債	4,672	4,225	△446
固定負債	5,709	5,779	70
負債合計	10,381	10,005	△375
純資産合計	14,619	15,685	1,066
負債純資産合計	25,000	25,691	690
自己資本比率	58.4%	61.0%	2.6pt

主な増減科目 (単位:百万円)

資産の部 たな卸資産 363、建物及び構築物 355

負債の部 有利子負債 △305、未払法人税等 △231、退職給付に係る負債 439

純資産の部 利益剰余金 816、土地再評価差額金 168

連結キャッシュ・フロー計算書



(単位:百万円)

	前期 (2014/3)	当期 (2015/3)	前期比増減額
営業活動 C/F	1,678	1,457	△221
投資活動 C/F	△827	△1,183	△355
財務活動 C/F	△451	△588	△137
キャッシュの増減	399	△314	△713
期末残高	2,781	2,466	△314

営業活動 C/F 当期純利益が増加するも、税金の支出も増加。

投資活動 C/F 固定資産の取得による支出が増加。

財務活動 C/F 有利子負債の返済・償還が長期借入れによる収入を上回る。

2016年3月期予想サマリー



(単位:百万円)

	当期 (2014/4~2015/3)	次期 (2015/4~2016/3)	前期比	
			増減額	増減率 (%)
売上高	18,758	19,100	341	1.8
▶医療機器事業	11,121	11,300	178	1.6
▶環境機器事業	7,636	7,800	163	2.1
営業利益	2,332 (12.4)	2,500 (13.1)	167	7.2
▶医療機器事業	1,254 (11.3)	1,400 (12.4)	145	11.6
▶環境機器事業	1,077 (14.1)	1,100 (14.1)	22	2.1
経常利益	2,413 (12.9)	2,500 (13.1)	86	3.6
当期純利益	1,427 (7.6)	1,700 (8.9)	272	19.1
1株当たり当期純利益(円)	117.47	139.38	—	—

※()内の数値は対売上高比率:%

売上高の予想イメージ

医療機器事業

補聴器

消費税率引き上げにより低下した個人消費マインドが回復することにより、堅調に推移する見込み。独自技術を反映した製品ラインナップの更なる充実を図るとともに、当社販売網への販売支援活動を強化。

医用検査機器

耳鼻咽喉科市場での買替需要が引き続き継続する見込み。また、産科・周産期市場では新生児聴覚スクリーニング装置の拡販に努めるほか、中国を中心とした海外での市場拡大に取り組む。売上高は横ばいとなる見込み。

※表中の矢印は、売上高の前期比増減を表しています。

環境機器事業

音響・振動計測器

インフラ関連など市場における設備投資の継続が予想されるなか、当期に発売した多機能計測システムを中心に、騒音計及び振動計の拡販に注力するとともに、中国、欧州への展開を推進。

微粒子計測器

電子デバイス関連市場では、微細化投資が活発な海外ファウンドリ企業を対象に液中微粒子計を拡販。また、再生医療分野での気中微粒子計システムの販売拡大を目指す。売上げ好調の当期比で、ほぼ横ばいとなる見込み。

Ⅱ 事業戦略

- 中長期の重点戦略
- 数値目標
- 株主還元策

代表取締役社長 清水 健一

中長期の重点戦略



海外展開の強化

市場での競争力強化

新技術による市場創出

海外展開の強化①

医療機器事業の本格的な海外展開

上海の子会社を拠点に販売活動を推進

- オーディオメータ、OAEスクリーナーの販売活動
- 今後、販売機種を拡大し、中国市場での認知度を向上
→ 医用検査機器の海外売上比率は今後10%を目指す

補聴器の海外展開

- 補聴器の本格的な海外展開に向け市場調査を継続中

現状



健診用オーディオメータと
OAEスクリーナーの販売活動

将来



補聴器および医用検査機器の
高価格機種の拡販を目指す

海外展開の強化②

環境機器事業の海外戦略

SA-A1の海外市場での拡販

- ・顧客ニーズにあわせてカスタム可能な“これからの計測器”
- ・産業計測と環境計測の両分野に拡販
- ・音響振動計測器の海外展開における主力製品
→同製品群の海外売上比率30%を目指す

微粒子計測器の海外市場での競争力を強化

- ・スマートホン、自動車向けに半導体の設備投資が活発になる見込み
- ・更なる微細化に対応する製品投入を継続することで、シェアを維持・拡大し、海外売上比率50%以上を目指す

SA-A1

2015年度は販路構築、
認知度向上、アライアンス
体制の確立を図る



KS-19F

業界で初めて薬液中
の30nm粒子を計測
可能。関係市場から
大きな反響



市場での競争力強化①

補聴器の国内シェア率向上の取り組み

専門店網の充実

- ・質の高いサービスを提供できる専門店網を全国に展開(約350店舗)
- ・年間10店のペースでの専門店出店を目指す
- ・綿密なマーケティングにより候補地を選定



顧客満足度の向上

- ・様々な生活環境に対応するため、引き続きラインナップの拡充を図る
- ・「フィッティングポリシー」を掲げ、接客のレベルを向上



市場での競争力強化②

音響・振動計測器の各市場への拡販

国内

環境計測市場

→官公庁関連で引き続き
確実な受注を目指す

産業計測市場

→設備投資活発な企業の
ニーズに応え、シェアを拡大

海外

欧米

→SA-A1を中心に新規顧客
を獲得し、シェアを拡大

中国・東南アジア

→今後の市場拡大を
見込み、販売チャネルを
強化し、販売を増加

成熟市場でのシェアを維持・拡大するとともに、
成長市場での商機を掴むべく事業を展開

新技術による市場創出①

生物粒子計数器の市場開拓

ピコプランクトンカウンタ (浄水処理工程における微生物を検出)



- ・水質管理者を置く浄水場が当面の販売先(全国約170ヶ所)
- ・その下流に位置する浄水場に対しても納入の可能性
- ・実証実験、プロモーション活動を継続

透析液用生物粒子計数器 「XL-10C」



- ・人工透析の施設は、国内に約4,200ヶ所
- ・日機装(株)と販売契約を締結
- ・コスト面に課題を残す

- ・販売は当初の計画より1年程度遅れるも、実証実験は順調に進行中
- ・2018年3月期の目標売上高は1.8億円

新技術による市場創出②

MEMSエレクトレットマイクロホンの開発

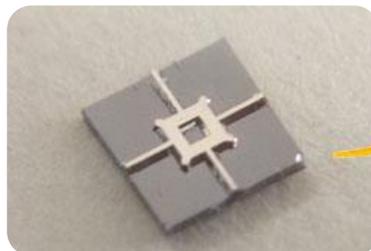
- 補聴器のほか、騒音計の部品として組み込まれる
- 高性能、低コストのマイクロホンを自社生産する事で原価を低減
- 2016年度中の量産化に向けて開発を継続中

軟骨伝導補聴器の市場投入

- 通常の補聴器を使用できないユーザ(国内約15万人)に向けた、他社にない当社独自の技術
- 2016年度の市場投入を目指す

MEMSエレクトレット マイクロホン

半導体技術を応用して作られるため、超小型で高精度な上に、大量生産が可能。



軟骨伝導補聴器

外耳道閉鎖症などにより通常の補聴器を使えない方でも使用が可能。



数値目標(2018年3月期まで)

連結売上高200億円

営業利益率15%

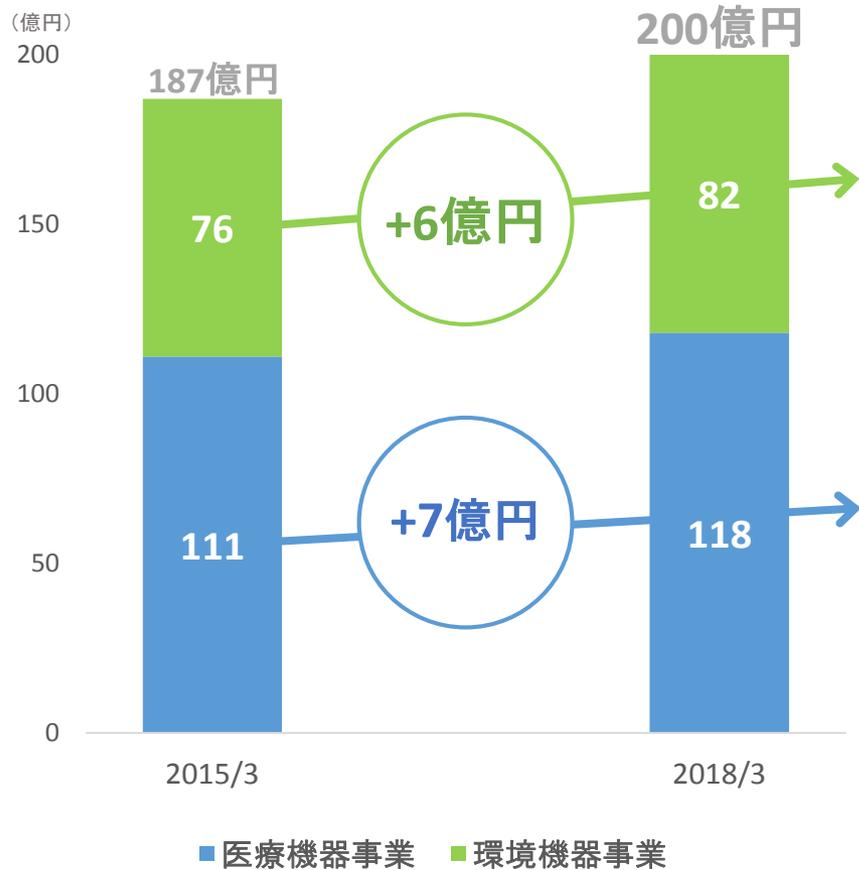
ROE(自己資本当期純利益率)10%



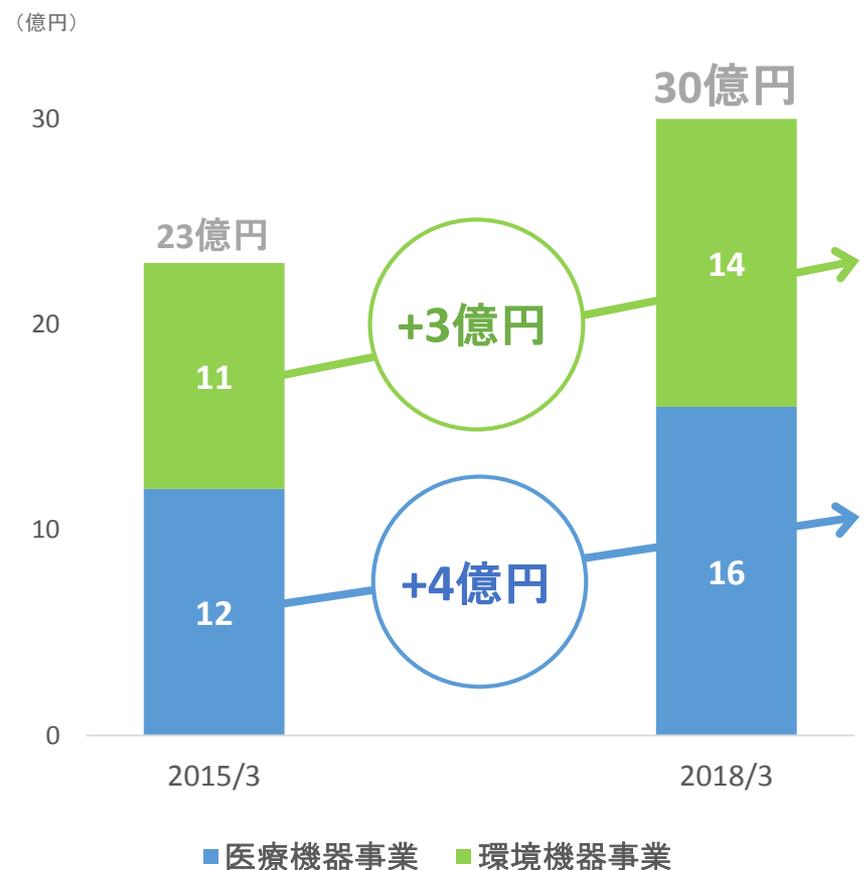
原価・コストの低減に取り組みつつ、
売上高の増加による達成を目指す

売上高・利益の推移イメージ

両セグメントで売上高を伸長させる セグメント別売上高



利益の向上に引き続き取り組む セグメント別営業利益



株主還元策について

配当方針

- ・経営基盤強化のための内部留保の充実
- ・持続的な配当の維持
- ・業績に応じた配当水準の向上(6期連続で増配の予定)

株主還元等の推移

	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3	2015/3	2016/3 (予想)
1株当たり配当金 (うち中間配当)	15円	18円	20円	22円	25円 (11円)	28円 (12円)	30円 (15円)
配当金総額	157百万円	188百万円	209百万円	233百万円	302百万円	340百万円	—
配当性向	42.3%	24.2%	37.3%	21.8%	22.2%	23.8%	21.5%
純資産配当率 (DOE)	1.6%	1.8%	1.9%	2.0%	2.1%	2.3%	—
自己資本当期純利益率 (ROE)	3.8%	7.6%	5.2%	9.1%	9.8%	9.5%	—

※2014年3月期より、中間配当を実施しています。